カトリック高松教区報

２０１５年７月１２日（第１６７号）
発行所　カトリック高松司教区　広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：　yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉

渇いている人に一杯の水をのませてあげるなら、それはイエス様にのませて差し上げることです。

これは小さな、単純な教えです。でも、よく考えてみるなら、それは、いちばん大切なことなのです。

通達

家族による聖体拝領

諏訪榮治郎司教

（障害・高齢・病気等のために主日のミサに参加できない家族のための聖体奉仕職に関して）

主の日（主の復活の日曜日）にキリスト者が集まってミサを捧げることは、初代教会からの大切な伝統です。

ミサで神のことばを聴き、主の食卓からキリストの体をいただくことによって、わたしたちは生きる希望を新たにし、ともに「キリストの体」へと変えられていくのです。

しかし、さまざまな「障害」をお持ちの方や高齢の皆さんには、共同体の集いや主日のミサに参加できない現実があることを残念に思っています。

せめて主日のミサの聖体を家族の一員から受け、共に祈ることができれば、秘跡における主との一致と共同体とのつながりを味わうことができ、主の日を共に喜びあえると考えました。

ミサに参加できない人のために

希望者は担当司祭に申し出を

司教は、司牧上必要と判断すれば、適任者を臨時の「特別聖体奉仕者」に任命する許可を司祭に与えることができます。キリストを運ぶ務めは、元来すべてのキリスト者の奉仕職であることが基本となっております。ゆえに、主日のミサを捧げた信徒の家族の一員が、この奉仕者にあてはまります。

家族が共に祈り、主に結ばれて生きる「小さな教会」として育まれるためにも、当教区において、司祭の任命を受けた家族の方が、主日のミサの聖体と共に家庭に帰り、ミサにあずかることができない信徒の家族に授けることを許可いたします。他の聖体奉仕者と区別するために「病者の家族のための聖体奉仕者」と呼びます。

この奉仕を希望される方は、小教区担当司祭に申し出てください。聖体奉仕者としての必要な要理教育と諸留意点を受けた後、司祭から任命を受け、この奉仕職を行っていただきます。

なお家族以外の方々へのミサ以外の聖体拝領につきましては、「病者訪問奉仕者」が教会から派遣される運びになります。

そのための病者訪問および聖体拝領授与者への「養成コース」が今秋から各地区（ブロック）小教区で準備される予定です。

「家族による聖体拝領」は、２０１５年６月７日（キリストの聖体の祭日）から実施としました。

高松教区司教
使徒ヨハネ　諏訪榮治郎
（２０１５年５月２４日
聖霊降臨の祝日に）

今こそ武力によらない平和を

戦後70 年司教団メッセージについて

平和を求めて『今こそ武力によらない平和を』（戦後70年　司教団メッセージ）

戦争可能な国への動き

過去の過ち繰り返すな

安全保障法案に思う

二度と戦争はしない。武力で問題解決を図る事はしない。日本は平和憲法制定以来70年間「中立」を歩んできました。しかし、安全保障政策が変わり、今や戦闘可能な国になろうとしています。

わが国の平和と安全を守るため、自衛隊が同盟国の後方支援として戦闘地域におもむく兵站任務の法案が議論されています。現在の自衛隊人道支援PKO活動もその範囲は広がり、武力を使うことを認める法案を成立させようとしています。

もし攻撃された場合、自衛隊は武器を使い速やかに撤退すると、国会で説明されていますが、素人であるわたしが考えても、いったん戦闘になれば、PKO部隊も合法的な戦闘対象となるに違いなく、常識では後方支援（武器弾薬食料）をまず叩くのです。

自国の利益と権力維持のために、多くの社会ルールが破棄され、いびつな力関係が表面化しつつある現在、武力による平和維持がまことしやかに語られています。

一発の銃弾が恐怖を生み、世界をさらなる緊張と憎しみの渦に陥れるのを心から危惧するのは歴史から学ぶがゆえです。　親しい若者たちが戦地に送られ、闇と死が取り巻く地獄の体験は、人間が人間であることを失わせ、人間の尊厳を奪い、また奪われ、悲劇と憎しみの報復連鎖社会を作るのです。「積極的平和のための戦い」は恐ろしい机上の空論に思えてなりません。

取り返しのつかない傷と罪を犯さないために『暴力と破壊に満ちた過去の過ち』を繰り返してはなりません。

険しくて困難ではありますが、平和の道を歩もうではありませんか。広島でのヨハネパウロ二世のこの訴えを勇気と信頼をもって選びとり、国と国とが対話の円卓につくことを心から祈り求めましょう。『今こそ武力によらない平和を』

（戦後70年　司教団メッセージ）が5月3日に発行されました。

日本の教会とすべての善意ある人々への「平和メッセージ」として送られています。戦前から戦中にかけて日本のカトリック教会が「尊いいのちを守るために、神のみ心にそって果たさなければならない預言者的な役割についての適切な認識に欠けていたことを認め」、また「神と、戦争によって苦しみを受けた多くの人々に対してゆるしを願うため」に司教団が平和への実現に向かって貢献していくという決意を表明したものです。

わたしたちは今こそ「時のしるしを読み解き、神のメッセージを伝える」という預言者の役割を果たさなければならない時であると考えています。

このメッセージを互いに読み、分かち合い、神の創造の業に参加する道を求めてください。

また「祈り」によって神の心がこの世界に流れていることを心から信じるわたしたちは、「キリストの体」としての使命を選び取っていくために、祈りをとおして多くの善意の人々の願いに結ばれたいと考えています。

司教　使徒ヨハネ
諏訪栄治郎

オペラ『高山右近　至福の王者』

～剣か愛か～　上演さる

２０１５年高松教区殉教者祭　7月4日・5日

これまで毎年高松教区主催として7月に開催していた高山右近祭及び結城了雪祭を教区殉教者祭として一昨年から一本化しました。

今年の殉教者祭は高山右近が福者に列福される可能性が高いことから東京オペラ協会のオペラ「高山右近　至福の王者」～剣か愛か～を教区殉教者祭とし、高松と愛媛に於いて上演することにしました。

高松、愛媛の両会場合わせて約６００名弱の来場者を数え、オープニングに高山右近の列福を祈り、始まりました。

オペラのあらすじにおいても右近の信仰と福音宣教への熱意がキャストの素晴らしいハーモニーに乗って迫力をもって伝わって来ました。

司祭のあり方考える

長崎で黙想会

今年も6月21日（月）から27日（土）まで長崎市にあるイエズス会の立山黙想の家で高松・広島教区司祭合同黙想会がおこなわれた。

指導は長崎教区司祭川添猛師（83）が担当され、これまでの長きにわたっての司牧経験から得られた信仰と司祭の在り方を語って下さった。

司牧における信徒との関係の中で、思い込みや行き違いを避けること、信徒たちが尊しとしているロザリオをはじめとするような民間信心等を大事なこととして認め、普段気付かない大切な霊性が私たちの間に存在すること、福音宣教が小さくされている人々の癒しに繋がっているか、また私たちの回心と、人を信仰に引き付けるような魅力に磨かれていくことへの希望や反省について軽妙な語り口から湧き出る笑いの中に、これからの司牧における必要不可欠な深い多くの示唆を頂いた。

講話に耳を傾ける司祭たち

はばたき

私たちにとって最も身近な会、教会の存在について考えてみたことがありますか。、あまりにも身近すぎて、当然の存在すぎて、何をどう考えればよいのか迷う人がいるかも知れませんね。建物である御聖堂、あるいはそれを含む敷地など、具体的な場所を意味することもありますが、信仰をつながりのベースとした人々の集まり、組織を指すこともありますね▼日本では、「三位一体の主日」の次の日曜日を「キリストの聖体」の主日として祝うことになっています。復活節が終わったこの時期に再度、神が私たちに聖体の秘跡を与えてくださったことに感謝する祭日です。▼三位一体、すなわち御父・御子・聖霊の一体化、あるいは神の三面性はなかなか説明しづらく理解しづらい概念の一つと言われていますが、誤解を恐れずに敢えてザックリ言うと、ちょうど「教会」のようなものではないかとコラム子は考えます▼建物だけ、あるいは人々だけでは教会は成立せず、信仰心を持った複数の人々が集う空間を身近に感じることに意味があります。神とのつながり、人とのつながりによって私たちは日々生きているでしょうか。そこからさらに信仰を深めるとともに広げることができるのではないでしょうか。全ての源が私たちの母なる「教会」なのです。

小教区紹介
松山教会（愛媛）

松山教会正面

交流の場「ゆうあい喫茶」

愛媛の宣教１３０年の節目となる年を迎え、松山教会も新たな岐路に立たされています。現代に至るまで私達にカトリックの道を繋いで下さった兄弟姉妹に学び、今を生きる信徒達の思いを汲み上げ、新たな世代に信仰を託せるように「多くの部分」が主の教えのもと「一つの体」として一致出来る、そのような姿を目指して、は歩んでいます。

松山教会　桑田高明

愛媛県松山市の玄関口である松山市駅から徒歩で5分ほど、雑居ビルが並ぶオフィス街の一角に松山教会は建てられています。

主任司祭はドミニコ会のルイス・グティエレス神父様です。未信者の方がお昼時に聖堂を訪ねられることも多く、愛媛県庁が近い通りに面して教会に併設された「マリア書院」も、大切な宣教の場としての役目を果たしています。

主日のミサへの参加者は約２００名、愛媛県中予の各地から信徒が訪れる松山教会が大切にしていることは「多様性の尊重」です。

信徒で作った復活のレリーフ

７つの委員会と、それを軸にした活動グループなど、10を超える信徒組織が教会典礼・青少年教育・カテケージス・路上生活者支援・みことばの分かち合いなど、様々な活動と奉仕を日々続けています。

また、小教区の取り組みとして、老若男女の交流の場として毎月2回開催される「ゆうあい喫茶」、信徒の技能を生かした手作り品も並ぶ各種バザーなど、教会全体で生き生きとした交わりの機会を設けることを重視しています。

多国籍の信徒が集う英語ミサも毎週行われ、聖霊降臨の国際ミサや小教区の行事でも日本人信徒との活発な交流が見られます。

教会関連施設の朝日ヶ丘のカトリック墓地では、松山教会に縁の深いドミニコ会修道女・神父の墓地や、山口宅助神父の手による浦上四番崩れの流謫碑などから、信仰の先人達の足跡に思いを馳せる事も出来ます。

⑳『典礼奉仕』のために
典礼聖歌　その１
教会音楽も各国語で歌う

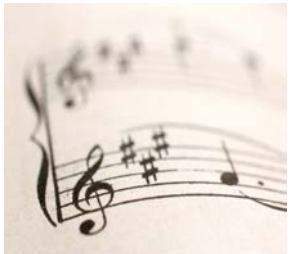
高松教区典礼委員長　谷口広海

高松教区典礼委員会は
①ミサ典礼書部分改訂の解説とスムーズな移行を目指しての取り組み。
②ミサにおける典礼聖歌の歌唱法の共通理解浸透のための取り組み。

この2項目について、各地区、ブロック、小教区へ出向いて説明会開催を進めていく予定としています。この説明会の日取り等については各地区・ブロック・小教区との日程調整となりますが、出来る限り早期に進めていきたいところです。

11月16日（待降節第1主日）から正式に開始されるミサ典礼書の部分改訂についてはカトリック中央協議会から詳しい解説が届いております。教区民がよりよく新しいミサ典礼に参加できるようにとの思いで、取り組んでいきます。

また、この教区報典礼コーナーでは典礼聖歌についての解説を順次掲載することによって、各地区における聖歌講習会への下準備に繋がることを期待しています。



典礼聖歌　その１

50年前に開催された第2バチカン公会議後の『典礼憲章』で「典礼の国語化」が謳われるまで、典礼のことばは原則、ラテン語でした。しかし、教会が、ヨーロッパ以外の地域などへ宣教するようにより、文化や習慣の違いから、どうしてもこれまでのやり方では対応できないと、時の教皇ヨハネ23世は考え、現代の状況に適応した宣教する教会へと刷新するため、この公会議を開催されました。

ここで、大きく刷新されたものが、典礼＝教会の公の礼拝・祈りでした。原則、すべてがラテン語であったものが、各国語で行えるようになり（『典礼憲章』３６§2）、福音に反するものでない限り、典礼の精神にふさわしいものは典礼の中に取り入れることを宣言したのです（『典礼憲章』３７および『現代世界憲章』５８参照）。

そこで、まず第二バチカン公会議『典礼憲章』が求めたものは、典礼における全信者の「積極的・行動的参加」でした（同憲章１１、１９、３０など）。

このような、典礼の刷新を受けて、日本のカトリック教会も、典礼の国語化に着手しました。

典礼で用いられる式文も国語によるものが作られ、式文そのものを歌う、教会音楽も国語によるものを作る必要に迫られました。このようにして誕生したのが『典礼聖歌』です。

＊典礼研修会予告
期日・9月23日（水・秋分の日）場所・岡山教会
大阪教会管区主催による信徒のための典礼講習会が予定されています。
詳しくは本教区報9月号に掲載いたします。

ひと
小さな教会を支えて55年
善通寺教会　橋本　雍（やすし）さん（85歳）

橋本雍先生を私たちは親しみを込めて日頃は「先生」と呼んでいます。先生は、徳島県鳴門の出身で、今年85歳になられます。

丸亀出身の同じ医師の奥様と結婚、奥様のお父様の琴平の医院を引き継がれました。

善通寺は弘法大師の誕生地、またお住まいの琴平は金毘羅さんの門前町。その地にカトリック教会が出来て55年になりますが、小さな教会を今日まで支えてこられたお一人です。

医師の仕事の他、町の色々な役職をなされ、地域のために働いてこられました。今は息子さんが医院を引き継がれ第一線を退かれましたが、時おり診察にもあたられており、まだ完全な隠居生活はできてはいません。

受洗は20歳の時で、京都での学生時代は、メリノール会やマリスト会のドミトリーで生活をされたこともあり、そのおり身につかれたのでしょうか、ミサや祈りを大切にする姿勢は、私たちの模範です。

6年前に奥さまも洗礼を受けられ、夫唱婦随の信仰生活の中、今はお二人でミサに来られます。

医者の不養生とならず、先生がいつまでもお元気で私たちと一緒にミサに与かり祈りできることを願っています。

善通寺教会　多田繁雄

右近列福を待つ
高松修女連総会

高松教区修道女連盟の総会が6月20日、小豆島・土庄教会で開かれ、講演と巡礼で、聖なる人　高山右近をしのびました。

講師は、小豆島キリシタンの足跡をたどる会々長の日向光徳先生で、講話のテーマは、「小豆島における高山右近とキリシタンの足跡をたどり見えてきたもの」でした。

小豆島にキリスト教がはじめて伝えられた1586年、グレゴリオ・デ・セスペデ神父様が一ヶ月余りの間に１４００人に洗礼を授けたそうですが、現在の福音宣教のあり方とどう違うのかと考えさせられます。彼らが命がけで信仰を守り、証してきたことに聖霊のみ業のあふれを感じました。

小豆島教会にある高山右近の銅像は長い間保存されていた大阪の玉造教会から8年前に運ばれてきたそうです。右近は名高い大名でありながら、率先して村民のなぎがらをかつぐなど、誠実で人間味あふれる領主として愛とぬくもりに満ちた国づくりをめざし、家来や民衆の生命と生活を大切にし、人々から大変慕われていました。しかし、棄教を迫られて、小豆島に隠れ潜んでいた時期があったことなど、右近の聖徳、お人柄について心を打たれるお話を伺いました。

その後のバスツアーでは、46番札所の多聞寺にある三角形〈三位一体をあらわす〉や十字架のしるしの窓が見てとれる灯籠、山中で人も来ず、この辺りであろうと推測される竹やぶにある高山右近潜伏の地と記された石碑等を訪れ、当時を偲んで感無量のひと時をすごしました。

その後、信徒会館で昼食と総会を終え、イスマエル神父様と岩崎神父様の共同司式ミサに与りました。

イスマエル神父様は、教皇様が奉献生にお出しになった「すべてのことに賛美」の紹介と、奉献生活者が喜びと希望のうちに未来に向かうための具体的な例を懇々とお話くださいました。

一日研修でしたが、感謝と祈りのうちに高山右近の列福の日を共に待ち望んでいます。

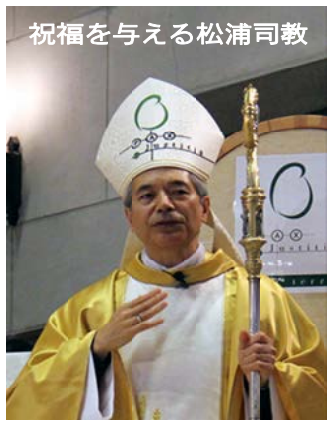
聖ドミニコ宣教修道女会
Sr丹下令

日向光徳氏による講話

名古屋教区
松浦悟朗司教が着座

6月13日名古屋カテドラル聖ペトロ・パウロ大聖堂で、松浦悟朗司教（62）の着座式が盛大に執り行われた。これまで名古屋司教として22年間努められた野村純一司教（77）から司教杖を受け取り、これからの名古屋教区の舵を取られることになる。

式は司教・司祭団約１００人で執り行われ、名古屋教区民と参列者千３００人の喜びの着座式となった。


祝福を与える松浦司教

高松・広島チーム善戦
司祭・助祭ソフト交流会

毎年1回、5月に西日本の5つの教区(長崎、福岡、大分、広島、高松)の司祭・助祭たちが集まってソフトボールの試合をする交流会が行われます。今年はさらに、大阪教区が新しく参加することになり、6つの教区が参加しました。高松教区は一つのチームが作れないので広島教区と共同でチームを作って参加します。

今年の交流会は長崎教区の担当で5月25日(月)長崎市松山町の市営ソフトボール球場で天気にも恵まれて行われました。　6つの教区から5つのチームが、まず二つのブロックに別れてリーグ戦をしたあと、成績が1位の2チームが決勝戦をして優勝チームを決めるシステムでした。

総勢100人を超える司祭団

一昨年を振り返って見ると、高松教区チームにシスターたちが参加し、去年の福岡教区での交流会では幼稚園の子供たちが応援に来ていました。今年は長崎の婦人会の応援団が特に注目に値し、その応援に力を得て長崎教区が福岡と大分教区を破り2勝でAブロックの1位になりました。

今まで最弱体であった高松・広島教区が属しているBブロックでは第1試合から、初参加の大阪教区を1回裏だけで打者一順し、13点差で勝つ波乱を起こしました。その後、浜口司教様が引きいる大分教区も破り、2勝で決勝進出を決めました。続いて行われた決勝戦では前年度優勝で今年ホームの利点を持っている、長崎教区の圧勝が予想されていましたが、勝負は最後までわからないもので、最強の長崎教区としては、わずか3点差での優勝をだれも予想していなかったのではないかと思います。

その後、授賞式と閉幕式が行われ、来年は大分教区で開かれることが決まりました。

勝負より多くの司祭が集まって運動をしながら交わり、年配の神父様から若手の司祭まで互いに交流できたことを神に感謝しています。

宋亨根

今年も盛大にルルド祭
再出発の三本松教会

今年も三本松教会で恒例のルルド祭が盛大に祝われた。これまで高松教区行事として位置付けられていたが、今回から、小教区行事となったため、例年と比べて参加者の減少が予想されていたにもかかわらず、昨年同様、香川県全域と徳島県から司祭１０名を含む１３５名ほどの参加があり、盛大なルルド祭となった。

今回のルルド祭は外国籍信徒も多数参加し、ルルドの聖母を讃えるロザリオの祈りから始まりミサ聖祭も英語を交え、国際色が前面に出た催しとなったことが特徴と云える。

三本松小教区は、典礼暦の頂点といわれる聖なる三日間と復活祭に水主の霊性センターC棟への引っ越しを終えたばかりで、ルルド祭開催まで、色々な曲折を乗り越えながらの準備となったが、次回開催を占う上でも、有意義なルルド祭となったことは間違いないようだ。

そういった中で、小教区の典礼の仕事やルルド祭、そして引っ越しにも積極的に奉仕をされていた姉妹信徒の突然の訃報に見舞われるという事態にも遭遇したが、彼女の分まで信徒全員が更にまとまるきっかけともなった。

背景にあるルルドのほこらが隠れてしまうほどに集まった信徒たち

教区スケジュール

7月
1日（水）福者ペトロ岐部司祭と187殉教者　記
3日（金）（初金）　聖トマ使徒　祝
4日（土）オペラ「高山右近」in高松 17:00
5日（日）年間第14主日　オペラ「高山右近」in松山15:00
12日（日）年間第15主日
14日（火）司祭評議会10：00～12：30 諸委員会委員長会13:30～15:30
19日（日）年間第16主日
20日（月）海の日
25日（土）聖ヤコブ使徒　祝
26日（日）年間第17主日　高山右近祭in小豆島13：00
27日（月）四国カトリック幼稚園連合会職員研修会in高松14：00（～28日）

8月
2日（日）年間第18主日「平和への祈りコンサート」in高松
6日（木）主の変容　祝　広島平和記念日　日本カトリック平和旬間（～15日）
9日（日）年間第19主日　長崎原爆の日
12日（水）下田武雄師命日（4回忌）
15日（土）†聖母被昇天　祭　終戦記念日
16日（日）年間第20主日　平和を願うミサ（主日ミサ）予定
22日（土）天の元后聖マリア　記
23日（日）年間第21主日
27日（木）聖モニカ　記　佐々木光雄師命日
28日（金）聖アウグスチヌス司教教会博士　記
30日（日）年間第22主日

「いっぱいしゃべった」
子どもと中高生の集い

「子どもと中高生の集い」は教区の「青少年委員会」（委員長Br八木）の活動の一つとして実施される集いで毎年、各県を回り、青少年委員会のメンバーと信徒の皆さんの協力によって実施している。内容は子どもたちの福音の教えの理解と実践への取り組みである。寸劇をしたり、絵を描いたりして理解したことを分かち合う。青年たちがリーダーとなって、歌やリクレーションも織り交ぜながら活気づけて、楽しい集いになるように心がけ、これからも多くの青少年の参加に期待を掛けている。

高知城で微笑む子供達

司教様のUFOの話がおもしろかったです。ついせきハイキングが楽しかったです。高知に関するクイズをグループのみんなでときながら高知城を登りました。

と中で道にまよったり、転んで、にもつをぶちまけたりした人をみんなで助けました。わたしたちのグループは、ザーカイしょうのしょうじょうをもらいました。うれしかったです。

もっと2はく3日くらいしたかったです。こどものつどいが1ねんに2回くらいあったらいいなと思いました。またみんなに会いたいです。

道後教会　福原優果

わたしはこどものつどいにさんかしました。今年で2回目です。去年とても楽しかったので、今年も楽しみにしていました。リーダーのお姉さんやシスターやグループの友達がやさしくて、いっぱいしゃべりました。

集会祭儀司式者・聖体奉仕者
徳島地区で6人を任命

徳島地区では、このたび6名の信徒が集会祭儀司式者と聖体奉仕者の認定書を諏訪司教様より頂き、身に余る光栄だと感動致しました。私も洗礼名、アシジの聖フランシスコの御名を汚さぬよう、一生懸命がんばりたいと存じます。

徳島教会　片山光男

6名の奉仕者、右端から
①林　広　鳴門教会
②吉岡美代子　阿南教会
③三原千栄子　鳴門教会
④松本　良子　阿南教会
⑤片山　光男　徳島教会
⑥西村　尭美　徳島教会

国外国籍信徒と共に交わる
和気あいあい聖歌交流会＆ミサ

昨年まで5回に亘り実施してきた「聖歌合戦」は、今回から、司教司牧書簡の長期ヴィジョンの中、本年度の2つの柱の1つである外国籍信徒司牧（ICC）の充実を図るための企画と位置付け、日本のカトリック教会は日本人のみの教会ではないという共通意識と理解を期待し、「国際聖歌交流会＆ミサ」として開催することにしました。

会場の桜町司教座聖堂には聴衆を含め、１４０人が集まり司祭団、シスターズ、ICC、小教区などから9チームが聖歌で主を讃え、続くミサでは英語、タガログ語、ベトナム語で祈りと賛歌を捧げ、ミサ後にはそれぞれが持ち寄った自慢料理に舌鼓みを打ちながら互いのお国自慢と談笑のうちにすごしました。

今回初参加で歌うドミニカンシスターズ

TSC便り　東日本大震災復興支援全国会議報告 上

これまでの「全国担当者会議」が今回から「全国会議」と衣を替え、一般信徒を交えての「東日本大震災復興支援第5回全国会議」とし、6月28日から3日間の日程で開催された。各教区の震災復興担当者、修道会担当者と信徒が参加する中、高松教区からも4名が参加し、早速に報告して頂いた。

左：平川氏 右：曽我部氏

田さんから、被災地の状況報告を聞きました。札幌教区は震災津波直後の3月18日にサポートセンターを立ち上げ、北海道からフェリーと陸路で12時間かけて宮古入りしたこと等聞き、その後、祈りのうちに小野寺神父様（仙台教区司教代理）のガイドで大槌町に向かいました。

大槌町の街並みだった場所や役所や病院は朽ち果てた情景でした。昼食後、復興状況を聞き、かさ上げ工事現場を見学しましたが、膨大な土地に7mのかさ上げが急ピッチで進んでいました。

次に向かった釜石大只越町のNPO法人カリタス釜石では、菊池写真館長さんの被災、復興状況を切り取った写真のスライドショーを見ました。館長さんは被災直後から必死で写真を撮ったそうです。

その後、カリタス釜石副理事長の伊勢さんより活動状況報告を聞き、復興住宅の見学に出ました。

ここは高台の為、買い物は徒歩で40分をかけて下の店まで行かなければならない大変な所でした。

次に大船渡ベースではカキ漁師の方と元新聞記者の方の話を聞きました。カキ漁師の方は100％養殖がだめになり、自らも被災者なのに飲食店をしていた鉄板で焼きそばを作って被災者に提供して大変喜ばれたこと、徐々に漁業再開に向け元のようにするだけでなく、もっと皆が喜ぶことをしたいと頑張ってきた体験など話して下さいました。

元新聞社の方は、行政の復興事業の進め方で、自分の土地と代替え地の差額の矛盾など、多くの問題についての訴えを聞きました。

夜の大船渡ベースとボランティアの方達との交流会では、被災者との明るく元気な絆を結ばれている前向きな姿に逆に励まされました。

坂出教会　平川三鈴

最終日の7月1日は仙台カテドラルを会場に全体会を持ち、支援活動方法の意見交換を行い、感謝ミサに与りました。

担当の菊池司教様はそれぞれが信仰に基づいて①あかし、②祈り、③愛と奉仕、この3つをもって教会の本質的なわざを行いましょう、と呼び掛けられました。

被災現場とかさ上げ工事、仮設住宅やスタッフの支援活動現場など、いろいろな所を見学させて頂き、自立と支援の難しさや、もう4年6か月、まだ4年6か月と、考えの違いなどもあるようです。全国の人が現地を見て皆に伝えて欲しい、祈ってほしいとの言葉が頭にやきつきました。

私は42年間マルチン病院で看護師を勤め、今年5月末で退職しました。

その頃、復興支援の事を聞き、私にも何か出来ないかと曽我部輝子さんと2人で参加しました。

6月29日宮古教会へ行き17名の参加者と合流後、北海道の方で宮古ベースの和

私はもっと近ければできるのにと思いましたが、遠くても出来る支援活動の取り組みを考えたいと思いました。とにかく見てきた事を皆に伝え、忘れないようにと呼びかけたいと思います。貴重な体験に参加できたことに感謝し、9月には視察ではなくボランティアとして赴くことに、すでに心を向けております。

坂出教会　曽我部輝子

TSC高松教区サポートセンター
東日本大震災大船渡支援
献金入金報告（含35米袋）
（4月22日～6月30日分として）
7万654円
累計（7月1日現在）
1千637万5982円

聖ドミニコ宣教修道女会

医療法人社団聖心会　阪本病院
わたしたちは、患者様の立場に立った全人医療を行い、地域の皆様に愛され信頼される病院を目指します
院内保育園完備

整形外科・脳神経外科・泌尿器科
皮膚科・外科・消化器外科
肛門外科・乳腺外科・形成外科
呼吸器外科・呼吸器内科・内科
リウマチ科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
〒769-2602
香川県東かがわ市川東103-1
☎0879-25-1121（代）
http://www.sakamoto-hosp.or.jp/

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう
暁の星学園
鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園